

本学特別支援クラブに関する実態調査報告その2

Investigation of the current situation and economical influence of Seisen university sports teams; Part 2

多胡陽介・炭谷将史・山堀貴彦・山越章平・後藤剣・宮崎奈美

TAGO Yousuke・SUMIYA Masashi・YAMAHORI Takahiko・YAMAKOSHI Shouhei・GOTOU Ken・MIYAZAKI Nami

要 旨

本学が特別に支援するクラブ（特別支援クラブ；男女ホッケー部、女子サッカー部）の学業成績、就職実績、地域貢献、競技成績、経済効果の状況を整理し、今後の課題について提言する。対象は、本学特別支援クラブに所属する学生（平成 27～31 年度：61～78 人）であった。調査期間は、平成 27 年度から平成 31 年度（令和元年度）であった。結果、学業成績について特別支援クラブ学生の卒業時 GPA は一般学生と比べて有意に高い傾向（ $P<0.1$ ）の年度がみられた。また、特別支援クラブ学生には、卒業時 GPA が学部全体の中で最高位の学生や国内留学制度を活用するなど勉学に積極的な学生がいる一方、GPA が 2.0 未満の学生も存在した。地域貢献については、ゼミを通じて地域活動を積極的に行う学生の存在や女子サッカー部における地域事業の積極的な協力が挙げられた。経済効果は、特別支援クラブや監督の新聞掲載における広告換算として 14,420,139 円、広報効果として 43,260,416 円であった。一定の広報効果が得られているが、男子ホッケー部監督や女子サッカー部に関する掲載記事が多く、男女ホッケー部の新聞掲載回数を増やすことが課題として挙げられた。また、動画配信による広報効果もみられた。競技成績は、男子ホッケー部と女子サッカー部が顕著な成績を残していた。以上より特別支援クラブは一定の成果がある一方、成績不振学生への学習支援や新聞掲載数の増加などの課題に対応していくことが必要である。

Key Words：特別支援クラブ、学業成績、就職実績、経済効果

1. 諸言

近年、UNIVAS（大学スポーツ協会）の設立など大学スポーツ振興に関する取り組みや議論が活発に行われている。大学スポーツの振興は学生生活の充実や大学のブランドづくりだけでなく、国民の健康づくりやスポーツを通じた社会の発展を支える存在として重要視されている（文部科学省，2017）。スポーツに関わる行動には「自己開発性」、「協同性」、「公開性」、「親和性」など多様な心理的特性を有しており（長田，1979；豊田，2004），現代社会における種々の課題を克服する手段としても多くの意義を有している。また，クラブ活動の活性化を通じて大学の魅力づくりを行うことは，大学の教育成果（「豊かな生活の保障」，「文化の追求」，「人材育成」など）を地域社会に向けてわかりやすく顕在化させる手段となる。

このように大学スポーツ振興には，大学 PR だけでなく社会に対して大きな可能性があるものの，同時に多くの課題についても指摘がなされている（文部科学省，2017）。例えば，学生競技者の学業と競技活動の両立が困難なケースがみられることである。各運動部や個人の成果・課題について適切に評価と公表を行い，結果として世に問うことは現在の大学スポーツ振興を推進するうえで重要であるといえる。

本学が特別支援クラブ（男女ホッケー部，女子サッカー部）を設立したのは，2008 年であり（男子ホッケー部は2009 年），本学のシンボル・スポーツとして学内外へのブランド力向上が期待されている。本学の「特別支援」とは授業料の減免措置，指導者の配置，マネジメント等のサポートである。2012 年には創部 4 年目の特別クラブの実態として，学業成績，奉仕活動，進路への取り組み，試合成績，経済効果の観点から検証が行われた（豊田ほか，2012）。その結果，学業成績は，一般学生と比べて優秀であり，ボランティア活動を積極的に行っていた。また，就職の内定率も一般学生に比べて高く，十分な経済的広報効果がみられた。試合結果についても 2013 年には女子ホッケー部が全日本学生ホッケー選手権大会にベスト 4 に入賞するなどの成果を出している。

特別支援クラブにかける投資は奨学金などを中心に大きい，経済効果の他，地域貢献や他学生に与える影響などを含めた包括的な波及効果としてその成果は換算されるべきである。各クラブとも設立から 10 年以上が経ち，あらためてその存在意義を検証するため，本稿では，特別クラブの現状や成果を整理し，今後の課題について提言する。

2. 方法

2.1 対象者および調査期間

本報告の対象者は、表1のとおり各年度の2月末時点で本学特別支援クラブに所属していた学生（以下、「特別クラブ学生」とする）であった。各年度の特別クラブの学生数は、平成27年度78人、平成28年度74人、平成29年度69人、平成30年度72人、平成31年度61人であった。調査期間は、平成27年度から平成31年度（令和元年度）であった。なお、特別クラブ以外の学生は「一般学生」と表記した。

表1. 各年度の調査対象者

	単位:人				
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
男子ホッケー部	27	28	25	26	18
女子ホッケー部	36 (1)	30 (1)	25 (1)	27 (2)	23 (2)
女子サッカー部	16 (2)	17 (2)	19 (3)	19 (5)	20 (6)
合計	79 (3)	75 (3)	69 (4)	72 (7)	61 (8)

() の数値は、看護学部入学生の内訳人数

2.2 調査項目

調査項目は、①学業成績、②地域貢献、③就職実績、④試合成績、⑤経済効果の5つであった。学業成績は人間学部における各年度の一般学生と特別クラブ学生の卒業時累積GPA（Grade Point Average）を算出した。また、学習面の積極的な態度として、本学主催の国内留学プログラムへの参加状況を調べた。地域貢献は各クラブおよび特別クラブ学生が関わる地域貢献活動の内容について調べた。就職実績については、実業団チームへの輩出状況と各年度3月末時点の就職内定率を調べた。試合実績は、各クラブの主な実績について表にまとめた。

2.3 経済効果

2.3.1 新聞記事

特別クラブ関連の新聞記事（監督、特別クラブの活動紹介や結果）を収集し、そのスぺ

ース（縦（cm）×横（cm））を計測した。そして日本広告業協会「新聞広告料金表 2020」を参考に、上記スペースがいくらの広告費に相当するか計算し、集計を行った。なお、カラー写真の場合は、カラー料金を付加した値段とした。広報効果を計測する際、広告に比べ記事で取り上げられた方が信頼が高いという考え方から、一般的に広告の3倍の広報効果があるといわれている。この考え方は3PC（Third Party Contributions）と呼ばれており（山田，2007），本研究では3PCの考えに基づき、換算した広告費に3を乗じることで広報効果を算出した。

2.3.2 動画配信

特別クラブに関連する動画を収集し、令和元年6月26日検索時点の再生回数を記録した。

2.4 統計処理

学業成績については、各年度の人間学部における一般学生と特別クラブ学生の卒業時GPAの平均値と標準偏差を算出し、対応のないt検定を行った。なお算出に当たっては、在学4年間の結果を同一条件で比較するため編入学生・留学生・看護学部生・退部学生を除外した。

3. 結果

3.1 学業成績

表2に平成27～30年度における人間学部学年全体（特別クラブ学生含む）と特別クラブ所属学生の卒業時GPAを示した。その結果、平成30年度の特別クラブ学生のGPAは、一般学生と比べて有意に高い傾向（ $p<1.0$ ）がみられた。その他の年度は一般学生と比べて差はみられなかった。また、特別クラブ学生のGPAを3.0以上、2.0～2.99、2.0未満に分類したところ（表3）、多くの学生のGPAは、2.0～2.99に位置するものの、3.0以上の優秀な成績を残す学生も毎年一定数みられた。一方、GPA2.0未満の成績の低い学生も一定数みられた。さらに平成30年度においては学部全体で卒業時GPAの最も高い成績は、男子ホッケー部に所属する学生であり（GPA：3.39）、続く2番目に高いGPA成績も男子ホッケー部に所属する学生であった（GPA：3.15）。

表 2. 特別クラブ学生と一般学生の卒業時平均 GPA

分類	特別クラブ学生	一般学生	t値
平成27年卒業生	2.41(±0.57) n = 17	2.39(±0.66) n = 23	0.14
平成28年卒業生	2.35(±0.42) n = 22	2.37(±0.45) n = 24	-0.15
平成29年卒業生	2.26(±0.45) n = 16	2.32(±0.44) n = 20	-0.40
平成30年卒業生	2.51(±0.41) n = 19	2.25(±0.44) n = 16	1.86†
平成31年卒業生	2.29(±0.61) n = 7	2.65(±0.66) n = 14	1.20

†: p < 0.1

表 3. 特別クラブ学生の卒業時平均 GPA の内訳

	該当人数(％: 各年度の特別クラブ卒業生全体に占める割合)		
	GPA3.0以上	GPA2.0～2.99	GPA2.0未満
平成27年特別クラブ卒業生全体(n=17)	3 (17.7%)	10 (58.8%)	4 (23.5%)
男子ホッケー部(n=5)	0 (0%)	2 (11.8%)	3 (17.7%)
女子ホッケー部(n=9)	2 (11.8%)	6 (35.3%)	1 (5.9%)
女子サッカー部(n=3)	1 (5.9%)	2 (11.8%)	0 (0%)
平成28年特別クラブ卒業生全体(n=22)	2 (9.0%)	16 (72.7%)	4 (18.2%)
男子ホッケー部(n=7)	1 (4.5%)	3 (13.6%)	3 (13.6%)
女子ホッケー部(n=12)	0 (0%)	11 (50.0%)	1 (4.5%)
女子サッカー部(n=3)	1 (4.5%)	2 (9.0%)	0 (0%)
平成29年特別クラブ卒業生全体(n=16)	1 (6.3%)	12 (75.0%)	3 (18.8%)
男子ホッケー部(n=5)	0 (0%)	3 (18.8%)	2 (12.5%)
女子ホッケー部(n=7)	0 (0%)	6 (37.5%)	1 (6.3%)
女子サッカー部(n=4)	1 (6.3%)	3 (18.8%)	0 (0%)
平成30年特別クラブ卒業生全体(n=18)	2 (11.1%)	15 (83.3%)	2 (11.1%)
男子ホッケー部(n=10)	2 (11.1%)	7 (38.9%)	1 (5.6%)
女子ホッケー部(n=5)	0 (0%)	5 (27.8%)	0 (0%)
女子サッカー部(n=3)	0 (0%)	3 (16.7%)	1 (5.6%)
平成31年特別クラブ卒業生全体(n=7)	1 (14.3%)	5 (71.4%)	1 (14.3%)
男子ホッケー部(n=4)	0 (0%)	3 (42.9%)	1 (14.3%)
女子ホッケー部(n=2)	0 (0%)	2 (28.6%)	0 (0%)
女子サッカー部(n=1)	1 (14.3%)	0 (0%)	0 (0%)

170 本学特別支援クラブに関する実態調査報告その2

また、学習面の積極的な態度として、本学主催の国内留学プログラムへの参加状況を調べた。一般学生も含めて毎年1～2名の参加であったが、平成30年度は男子ホッケー部所属の学生、平成27年度には女子ホッケーに所属する学生がそれぞれ1名ずつ参加していた。

3.2 地域貢献

表4は特別クラブ学生が参加した主な地域連携活動である。女子サッカー部は本学地域連携交流センターと連携して様々な活動に参加していた。また、特別クラブ学生が関わった地域活動は多数あるが、いずれもゼミ活動を通じての活動が主であった。

表4. 各クラブの地域連携活動

	主な行事参加
男子ホッケー部	・地域の夏祭りにおける支援スタッフ ・総踊り大会への団体参加
女子ホッケー部	・総踊り大会への団体参加 ・子ども自然体験教室の支援スタッフ
女子サッカー部	・ご当地キャラ博の支援スタッフ ・彦根城築城410年祭の支援スタッフ ・自然体験教室の支援スタッフ ・親子サッカー教室の指導
その他、主な特別クラブ 学生の地域活動	・近畿経済産業局実践型課題解決プロジェクト 「Ai-SPEC2017」の取り組み・発表 ・映画祭の企画および運営 ・近隣幼稚園における運動遊び支援 ・少年リーダー研修の支援スタッフ ・中高齢者を対象にした健康講座の支援スタッフ ・自治体オリジナル体操制作におけるDVD実演 ・認知症予防啓発プロジェクトの企画および運営 ・障がい者スポーツの指導スタッフ

3.3 就職実績

3.3.1 実業団チームへの輩出

特別クラブ学生の平成27～31年度卒業生において実業団チームに入部した人数は、男

子ホッケー部3名、女子ホッケー部2名、女子サッカー部6名であった。

3.3.2 就職状況

特別クラブ学生の就職率は、各年度の3月末時点において97.5%であった。就職先は、大手企業、中小企業、金融機関、公務員、福祉施設、スポーツ関連企業と多岐にわたっていた。男子ホッケー部では大手自動車販売の系列会社に就職する学生や信用金庫に就職した学生も存在した。女子ホッケー部では、社会福祉協議会や児童相談所に就職した学生も存在した。女子サッカー部は、スポーツ関連企業への就職が多かった。

3.4 試合実績

表5は平成27年4月から令和元年3月までの特別クラブの主な試合実績である。男子ホッケー部は全日本大学ホッケー王座決定戦で創部以来初の全国ベスト4に入賞した。女子ホッケー部は、関西リーグ第3位の通算回数や全日本学生ホッケー選手権大会の連続12回の出場をほこるが、近年では全国大会ベスト4の入賞はみられない。女子サッカー部は創部以来初の皇后杯JFA全日本女子サッカー選手権大会の出場や第28回全日本大学女子サッカー選手権大会ベスト16の成績を出した。

表5. 主な試合実績

	主な成績
男子ホッケー部	<ul style="list-style-type: none"> ・第37回 全日本大学ホッケー王座決定戦 ベスト4(9年連続出場) ・全日本学生ホッケー選手権大会 9年連続出場 ・関西学生ホッケー連盟秋季リーグ 第3位 (通算2回)
女子ホッケー部	<ul style="list-style-type: none"> ・第35回女子全日本学生ホッケー選手権大会 ベスト4 ・関西学生ホッケー連盟春季リーグ 第3位 (通算7回) ・関西学生ホッケー連盟秋季リーグ 第3位 (通算8回) ・全日本学生ホッケー選手権大会 12年連続出場
女子サッカー部	<ul style="list-style-type: none"> ・第40回皇后杯 JFA 全日本女子サッカー選手権大会 滋賀県初出場 ・2019年度関西学生女子サッカー春季リーグ 第3位 ・第28回全日本大学女子サッカー選手権大会 ベスト16

3.5 経済効果

3.5.1 新聞分析

表6は2015年4月～2020年3月までに掲載された特別クラブと監督に関連する新聞記事の掲載数、広告料金換算、広報効果である。広告料金換算費は14,842,158円、広報効果は44,526,474円であった。掲載数は5年間で19件であった。掲載された新聞社は、朝日新聞2件、京都新聞が3件、中日新聞（滋賀中日含める）が8件、毎日新聞が2件、他徳島新聞など4件であった。記事の内容は、Blue sticks SHIGAに関する記事（男子ホッケー部）、試合結果（女子ホッケー部）、皇后杯JFA全日本女子サッカー選手権大会出場や全日本大学女子サッカー選手権大会（女子サッカー部）に関する記事であった。特に、男子ホッケー部監督と女子サッカー部に関する記事が多かった。

表6. 新聞掲載による経済効果（2015年4月～2020年3月）

記事内容	掲載数	広告料金換算(円)	広報効果(円)
男子ホッケー部	2	883,238	2,649,715
女子ホッケー部	1	108,000	324,000
女子サッカー部	8	3,213,789	9,641,367
男子ホッケー部監督	7	10,215,111	30,645,334
女子サッカー部監督	1	422,019	1,266,058
合計	19	14,842,158	44,526,474

3.5.2 動画配信

表7は各クラブに関連した動画配信の内容と総再生回数である（令和元年6月26日検索時点）。動画の内容は、選手が実演する技術解説動画、試合の様子を配信する動画、クラブ紹介の動画、監督による学生募集に関わる動画がみられた。男子ホッケー部に関する動画配信は多様な内容が存在し、総再生回数が10,000回を超える動画が2件、100,000回を超える動画も存在した。女子ホッケー部と女子サッカー部に関連する動画は、主に試合の様子を配信する動画であった。男子ホッケー部監督が説明する技術解説動画や学生募集に関わる動画もみられた。

4. 考察

4.1 学業成績

特別クラブ学生の卒業時GPAは、平成30年度のみ一般学生に比べて高い傾向($p<0.1$)であった（表2）。しかし、その他の年度には差がみられず、年度によって学業成績の傾向

表 7. 動画配信の内容と総再生回数（令和元年 6 月 26 日検索時点）

該当クラブ	内容	配信主	動画数	総再生回数
男子ホッケー部	試合動画	日本ホッケー協会	2	16,395
	男子ホッケー部の紹介	個人	1	16,703
	試合動画	個人	1	808
	技術解説	ホッケー動画チャンネルFLICKER	1	5,356
	試合動画	聖泉大学男子ホッケー部	2	1,569
	技術解説	MY HOCKEY JP	1	190,057
女子ホッケー部	試合動画	日本ホッケー協会	1	13,329
	女子ホッケー部の紹介	聖泉大学女子ホッケー部	1	341
	試合動画	個人	5	1,159
女子サッカー部	試合動画	JFATV	1	2,592
男子ホッケー部監督関連	技術解説	ホッケー動画チャンネルFLICKER	2	19,358
	技術解説	MY HOCKEY JP	1	8,498
	高校訪問	徳島新聞動画	1	1,863
合 計			20	278,028

が異なった。2012 年に調査した特別クラブの学業成績は、一般学生と比べて有意に高い成績であった（豊田ほか、2012）。現在の特別クラブ学生の学業成績は一般学生とほぼ変わらない状況であり、2012 年の結果と比較するとやや低下しているといえる。この要因について、2012 年は創部して間もない時期であり、チームを作り発展させていく必要があることから学業にも積極的に取り組む学生が比較的多くいたと推察できる。今後のクラブの継続および発展をはかるうえで学業成績の面からも優秀な人材の確保が求められる。

次にクラブ別に平成 27～31 年度間の卒業時 GPA を比較した結果（表 3）、女子サッカー部では 3.0 以上の学生が合計 6 人となり他クラブと比較して多かった。男子ホッケー部は、3.0 以上の好成績の学生が合計 3 名おり、学部全体の中で最高位 GPA を獲得した学生も存在していた。一方、男子ホッケー部は 2.0 未満の学生数が 10 人となり、他のクラブと比較して成績不振傾向の学生が多かった。女子ホッケー部では平成 27 年度に GPA3.0 以上の学生が 2 名いたが、平成 28 年度以降はみられなかった。また、国内留学プログラムに参加した特別クラブ学生が男子ホッケー部で 1 名、女子ホッケー部で 1 名いた。国内留学プログラムは、外国人との寮生活の中で英語のスキルを磨くプログラムである。英語で会話することが必然的に求められ、このようなプログラムに挑戦していることは一般学生にとっても良い影響を与えているものと考えられる。

以上から特別クラブに所属する学生は勉学において優秀な学生が存在している。一方で

卒業時に GPA 2.0 未満の成績不振傾向の学生も存在する。約 7 割にも上る大学が学生競技者への学習支援の必要性を感じており（伊藤ほか，2014），本学においても成績不振傾向の学生に対する具体的な学習支援策を検討する必要がある。

4.2 地域貢献

本学における建学の精神は、「人間理解」と「地域貢献」である。特別クラブの学生が地域の行事などに参加する事例はこれまでも多くみられ，本学の「地域貢献」に果たす役割にも大きな影響を及ぼしている。特に特別クラブには活発な学生が多いことから，地域の町おこし事業，高齢者や子どもの支援など元気で活発な人材を求められる際に活躍する傾向である（表 4）。女子サッカー部は，様々な行事に参画しており，地域への露出頻度も高い。他にも平成 27 年には，団体で地域の踊りを披露する行事に特別クラブの学生が半数以上参加し，“チームワーク章”を受賞するなど地域に元気な姿をアピールしている。また，地域におけるお祭りへの参加や運営スタッフにも参加している。さらに，ゼミ活動を通じて積極的に地域貢献活動を行っている特別クラブの学生は多い。運動部に所属する学生は，競技だけでなく学校生活においても目標や計画を立てており，またリーダーシップやコミュニケーション能力に優れているとする報告がある（上野・中込，1998；青木，2005）。このような特性の学生を地域で積極的に活かすことは，地域連携活動を推進するうえで重要な視点である。また，特別クラブと地域団体との連携を深めることは，地域と大学の両方の発展につながる可能性がある。

4.3 就職実績

実業団チームに就職した学生数は，平成 27～31 年度にかけて 11 名であった。特に女子サッカー部は 6 名輩出しており，男女ホッケー部と比較して多い。実業団チームに就職した学生の中にはプロリーグで活躍する選手も存在し，大会パンフレットやチームのホームページなどの選手プロフィール欄に出身大学名が記載されている場合も多い。正規の選手として活躍しているほか，卒業してもなお広報としての一役を担っているといえる。

また，特別クラブ全体の各年度 3 月末の就職率は 97.5%であり，就職先も大手企業を含め，多岐にわたっていた。伊藤ほか（2014）の報告によると約 5 割の大学において運動部学生の就職率は一般学生よりも高いことが報告されており，本学においても同様の傾向で

ある。ただし、就職後の調査は行っていないため、就職した後の活躍や早期離職の状況などを調査し、在学中のキャリア教育に活かしていくことも重要である。

4.4 試合実績

特別支援クラブは現在まで様々な活躍を成してきているが（表5）、近年、顕著な成績を出しているのは、男子ホッケー部と女子サッカー部である。男子ホッケー部は、第37回全日本大学ホッケー王座決定戦にてベスト4位に入賞している。女子サッカー部は創部以来初の皇后杯JFA全日本女子サッカー選手権大会の出場や第28回全日本大学女子サッカー選手権大会ベスト16の成績を出している。地方の小規模大学を受験する高校生にとってスポーツ活動が活発であることは、大学に対して一種の安心感を生むことにつながると考えられ、一般学生の学生募集にも良い影響を及ぼしている可能性がある。また、女子ホッケー部については、全国大会への連続出場などの実績があるものの近年では特筆すべき結果が出せておらず、今後の戦略を検討する必要がある。

4.5 経済効果

新聞掲載による経済効果については、平成27年度から令和2年3月末時点までに掲載された項目について日本広告協会（2020）広告料金表より該当範囲の広告料金を換算した。その結果、広告料金（経済効果）は14,842,158円となり、広報効果は44,526,474円となった。掲載数としては、女子サッカー部と男子ホッケー部監督に関する記事が多い。女子サッカー部の記事内容は、皇后杯JFA全日本女子サッカー選手権大会出場や全日本大学女子サッカー選手権大会に関連する内容が多く、試合成績の向上と大きな関係がみられる。また、男子ホッケー部監督は、日本代表チームマネージャーである他に、“しがスポーツ大使”にも就任しており、大きな広報効果を有している。今後の課題として、男女ホッケー部に関する新聞掲載数が少なく、トピックスを作り出す戦略が必要である。

大学スポーツの経済効果を検証した論文では、宮本（2007）、山田（2007, 2009, 2010）、豊田ほか（2010）によりその経済効果が実証されているが、近年では、インターネットによる広告費用が新聞などのマスメディアを上回ったと報道され、インターネットによる広報効果が認められている（電通、2018）。ホームページはもとより、動画配信、ツイッター

一、フェイスブック等の SNS の活用により、その広報効果はなお上昇傾向である。表 7 は各クラブの動画配信の内容と再生数を表しているが、男子ホッケー部は動画配信を上手く活用している。男子ホッケー部に関連した動画の総再生回数（令和元年 6 月 26 日検索時点）は、20 万回数を超え、大きな広報効果があるといえる。また、女子ホッケー部については、ホッケー日本リーグの公式ホームページに試合動画が多数掲載されており、このことも多くの人の目にとまるきっかけとなっている。その他、本学特別クラブが関連する団体のホームページによる再生回数などを含めるとその広報効果はさらに増大すると予想される。今後は、各クラブの動画配信の充実や SNS の活用などの効果的なインターネット・SNS 広報について検討する必要がある。そのためには、スポーツのマネジメントや情報発信に長けた人材の雇用、もしくは教職員や監督への研修機会の創設などが必要である。さらに、試合成績などのニュースだけでなく、各特別クラブが地域貢献に着眼した事業にさらに積極的に取り組むことによってトピックスを生み、メディア掲載につなげていくことも重要である。

5. まとめ

調査を行った結果、特別クラブの学生には以下の特徴がみられた。

- ①学業成績について、平成30年度卒業生の GPA は一般学生と比べ有意に高い傾向 ($p < 1.0$) がみられた。その他の年度は一般学生と比べ差はみられなかった。
- ②GPA の高い学生 (GPA3.0 以上) や低い学生 (GPA2.0 未満) が一定数みられた。
- ③地域貢献活動を積極的に行っていた。
- ④試合成績は、男子ホッケー部と女子サッカー部の成績が向上していた。
- ⑤特別クラブ所属学生の活動には、一定の経済的広報効果がみられ、本学のブランド化に貢献していた。

以上より、特別クラブの活動は、学業成績、地域貢献、就職実績、試合成績、経済効果で一定の成果を得ていた。一方で学業成績が低い学生への学習支援や経済効果としての新聞掲載数の増加などの課題に対応していくことが必要である。

引用・参考文献

- 青木邦男（2005）高校運動部員の社会的スキルとそれに関連する要因，国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要，Vol.5，25-34.
- 伊藤克・北徹朗・高橋宗良・西垣景太・重藤誠市郎・小林勝法（2014）スポーツ・クラブ統括組織と学修支援・キャリア支援に関する調査報告，大学体育 105，132-135.
- 上野耕平・中込四郎（1998）運動部活動への参加による生徒のライフスキル獲得に関する研究，Vol.42，33-42.
- 小野雄大・友添秀則・根本想（2017）わが国における大学スポーツ推薦入学制度の形成過程に関する研究，体育学研究 62，599-620.
- 豊田一成（2004）スポーツと心，体育・スポーツのサイコロジー，アイオーエム，8-28.
- 豊田一成・有山篤利・炭谷将史・山堀貴彦・多胡陽介・竹内早耶香（2010）聖泉大学スポーツ文化研究所紀要スポーツ文化研究所の存在意義を眺望した経済効果に関する研究—スポーツ文化研究所の3年間の集約—，聖泉大学スポーツ文化研究所紀要，3，（1）45-58.
- 豊田一成・有山篤利・炭谷将史・山堀貴彦・多胡陽介・竹内早耶香（2012）本学特別支援クラブに関する実態調査報告，聖泉大学スポーツ文化研究所紀要第4巻第1号，41-50
- 電通（2018）日本の広告費
<https://www.dentsu.co.jp/news/release/pdf-cms/2019023-0228.pdf>（参照日 2019年6月26日）
- 長田一臣（1979）体育心理学，大修館書店，90-97.
- 日本広告業協会(2020).新聞広告料金表 2020.
- 文部科学省（2017）大学スポーツ振興に関する検討会議最終とりまとめ，
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/005_index/toushin/_icsFiles/afile/dfile/2017/03/10/1383246_1_1.pdf（参照日 2020年10月29日）
- 宮本勝浩（2007）大学の経済効果—関西大学のケース．現代社会と会計，Vol.1，101-119.
- 山田満（2007）2007年箱根駅伝総合優勝の広報効果の研究．順天堂大学スポーツ健康科学研究，Vol.11，95-102.
- 山田満（2009）2008年箱根駅伝出場校のメディア露出の計測と広告費換算—2007年調査と

178 本学特別支援クラブに関する実態調査報告その2

の比較研究一. 順天堂大学スポーツ健康科学研究, Vol. 13, 95-109.

山田満 (2010) 本学の箱根駅伝のメディア露出の計測と広告費換算—2007～2009 年の推移—. 順天堂大学スポーツ健康科学研究, Vol.16, 508-516.